令和7年度工場見学会

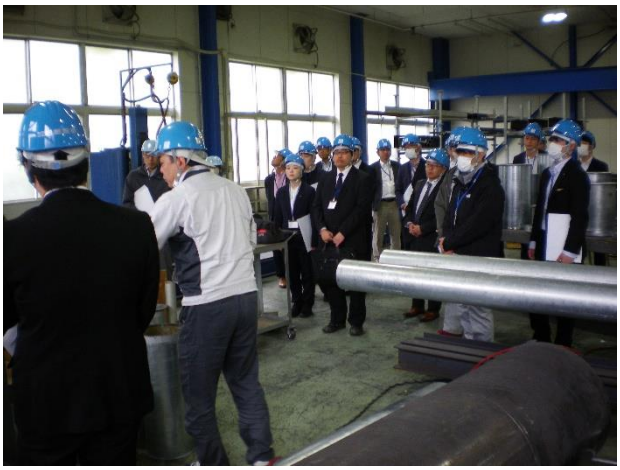
株式会社朝日工業社 東北支店
技術部工事課　稲垣　勝也

令和 7 年 10 月 22 日に東北空調衛生工事業協会主催の工場見学会が開催され「近藤設備 花巻工場」ならびに「一ノ蔵」を見学する機会をいただきました。

まず、岩手県花巻市にある「近藤設備 花巻工場」を見学いたしました。
工場内は広く整然としており、作業スペースごとに明確な区分けがされていました。各工程ではライン化が進められており、少人数ながら短時間で効率的に加工・組立作業が行われており、各口径に対応したフレア加工機や配管溶接機などの生産設備を間近に見ることができました。

稼働中の工場を見学するのは初めてでしたが、当初想像していた油のにおいや狭い通路、足元に転がる材料の山といったイメージとは異なり、清潔で明るく、快適な作業環境が維持されていました。このような環境整備は作業効率の向上だけでなく、工場内での労働災害防止にもつながっていると感じました。生産ラインの外には納品予定の配管ユニットが整然と並べられていました。実際に仕上がりを確認し、製品の精度や高い技術力を実感しました。

また、近藤設備殿では「グリーン ILC」活動を推進しているとの説明がありました。これは大型 ILC（国際リニアコライダー）建設候補地において、地球環境や生態系との共存を目指し、持続可能なエコ社会の実現を図る取り組みです。同社ではキャンプ場の運営やウォーキングコースの整備、広大な土地を活用したドローン操作指導など建設関連以外の分野にも事業を広げ、岩手の豊かな自然環境を活かした地域活性化に大きく貢献しているそうです。



工場見学の後は花巻市内にある「金婚亭」にて昼食となりました。自社で生産している様々な漬物と一緒に蕎麦や炊き込みご飯などをいただきました。提供された漬物は併設されたお土産店で販売されており、気に入ったものをその場で購入できる点も魅力的だと感じました。

昼食後は最後の見学施設である「一ノ蔵」へ向かいました。一ノ蔵酒造は 1973 年（昭和 48 年）に宮城県大崎市松山に誕生した酒蔵で、地域の伝統を守りながら新しい時代に合った酒造りを続けるために地元の四つの酒蔵が協力して設立されたと説明を受けました。また「一ノ蔵」という名前には「四つの蔵が一つになった」という意味と「日本一の蔵（オンリーワン）を目指す」という願いが込められているそうです。

工場内では日本酒を製造するための機器や設備を見ることができました。そのほか地域特有の米の種類や製造方法、酒造りに欠かせない水の扱いなどについても説明を受け、一つの日本酒ができるまでに多くの手間と工夫があることを知りました。今後、日本酒をいただく際には、その背景を思いながら、より味わって楽しみたいと感じました。

見学の最後に日本酒の試飲をさせていただきました。同じ米から造られているとは思えないほど味わいに違いがあり、それぞれに独自の個性を感じました。女性でも飲みやすい豊潤でフルーティーなタイプ、華やかな香りがあり洗練された味わいのタイプ、お米本来の風味を活かした力強く重厚なタイプなど日本酒の奥深さを実感いたしました。

今回の工場見学会は、どちらの施設も「ものづくり」をする上で「自然環境との調和」を重視した運営を行っており、施工管理職として建設現場に携わる私にとって大変有意義な見学となりました。今後は自身の仕事においても効率や成果を追求するだけでなく、環境への配慮や社会への貢献を意識しながら行動していきたいと思います。

最後に今回の見学会を企画・運営してくださった技術委員会の皆様に心より感謝申し上げます。